

みをあからさまに町民に知らせ、町と町民の間に相互信頼を築くことが、大きな力を生み健全財政の維持と、持続可能な自

治体をしるべきことができるとしている。合併をせず自主独立の道を選んだ決断は、地方自治制度に一石を投じるものである。

なお、「もったいない図書館」と「山のごちそう本舗」を視察したが、紙面の都合で割愛した。

記・小澤啓司

## 議会基本条例の先進地を学ぶ

### 福島県会津若松市議会

平成26年10月15日(水)

参加議員：菅谷二夫・寺嶋正健和田貴実代・小澤啓司・飯田一  
大館秀孝・鈴木貞徳・齋藤永・利根川茂・中野博

### 基本条例の発端



会津若松市は福島県西部に位置し、面積383

km<sup>2</sup>(松田町の約10倍)で人口は126,220人。会津地方の中心都市であるが、全国の市町村と同様に少子高齢化が進

んでいる。市議会で基本条例を制定することになったのは、平成19年5月に就任した新議長の「議会改革」に関する考えが発端であった。それは、市民の付託に応えるる議会を目指すため、行政側に対し議会から政策提言をしていくというものでした。

そのためには、市民ニーズを把握するため、市民との活発な意見交換を行い、そこで得られた意見から問題を発見し、課

### 政策提言と成果

地区別意見交換会は、一般住民を対象に5月と11月に市内15ヶ所で、市政に関する意見や課題などをテーマに開催している。一方の分野別意見交換会は、各種団体から要望されたテーマごとに不定期で行っている。

題を設定し議員間の討論によって、政策提言に結びつけていた。

これまで、意見交換会で出された市民の声を参考に、政策討論会で「市政に対する提言」を取りまとめたものは、①財政②「3減量③いっ水(水

があふれること)対策④市営住宅などで、定期的に行政へ政策提言を行っている。

これらの政策提言の中で、行政が取り組んだものは、「①財政」と「③いっ水対策」が代表的なものであった。財政に関しては、財政調整基金(積立目的が限定されない市の定期貯金)が極めて少なかったため、財源不足を解消することや少子高齢化に対応するため、無駄な支出を抑え徹底した行政改革によって、30億円の基金確保ができたという。

また、水田を潰して大規模な住宅開発を行った地区は、ゲリラ豪雨によって側溝から雨水があふれ出ていることから、「いっ水対策に関する提言」を行った。この提言を機に、市は予算を優先的につけたことで、側溝改修工事は3分の2まで完了したので、市民から感謝されている。

### 手本となるよう

松田町議会では、平成25年12月定例会で「議会基本条例検討委員会」を設置し、これまで先進地における議会基本条例の調査・研究を重ねてきた。来る3月定例会では、検討委員会での調査・研究の成果を報告することになるが、その内容については、町民の方に納得いただけるものになりたいと考えている。

記・鍵和田貴実代

### 196号(H26年11月15日発行)の訂正

コスモス館の農産物は午前中に売り切れて「午後は閉店している」と掲載しましたが、「午後は売り場が空いている」の誤りでしたので、お詫びいたします。(広報委員会)



会津若松市議会議場にて(H26年10月15日)